

会 議 録		令和6年2月8日作成	令和9年3月末日廃棄
会議名	京都府城陽警察署協議会（令和5年度第4回）		
開催日	令和6年2月5日（月曜日）		
時 間	午後1時30分から午後2時50分までの間（80分間）		
場 所	京都府城陽警察署 講堂		
出席者	大久保会長、佐川副会長、岸本委員、武田委員、森委員、亀川委員、 水田委員、中川委員、島本委員、浦畑委員 （欠席 下村委員） <span style="float: right;">計10名</span>		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 警備課長、交通指導係長、広聴係長 <span style="float: right;">計10名</span>		
諮 問 事 項	1 城陽市の犯罪情勢について 2 令和5年の交通事故発生状況等について		
会 議 内 容	1 署長挨拶 <span style="float: right;">司会 副署長</span> 2 会長挨拶 3 協議 <span style="float: right;">司会 会長</span> (1) 諮問事項説明 城陽市の犯罪情勢について～生活安全課長 【委員】防犯教育プログラム「つなぐ」について、詳しく教えてほしい。 【警察】これまでは「大人が子供を守る」一択であったが、常に子供の傍に大人がいるわけではなく、それだけでは子供を犯罪から完全に守るのは難しいということで、大人不在の時でも子供自身が自分自身を守れるようにならないといけないという考えから出来たプログラムである。 【委員】具体的にどのようなことをしているのか。 【警察】例えば、危険な場所に近付かないような教育では、幼いうちから暗い道や明るい道、人通りの少ない道や人通りの多い道等を考える素材として与え、自ら危険予測をさせ、危機管理意識を醸成させる取組を行っている。 【委員】子供の安全対策としてGPSの普及率はどの程度か。 【警察】警察でGPSの管理はしていないのでお答えできない。		

子供、特に小学生以下の子供が帰宅しないとの申告があれば、警察官を大量動員して捜索を行う。その際に、親がGPS機能のついた携帯電話などを子供に持たせていれば、捜索範囲も絞られて、早期に発見も可能である。携帯電話以外でもGPS機能の付いた器具はあるので、親御さんには是非とも御検討願いたいと思う。

【委員】自分の子供を守るためにGPSは大変有効な手段だと思うが、普及率を上げるための啓発をしてはどうか。

【警察】個人情報厳しく叫ばれる中、どうしても他人に居場所が分かるGPS機能に抵抗を感じる方も多いので強制はできない。

ただ、亀岡市においては、万が一の時に子供の位置情報が確認できる「亀岡市子ども見守りシステム」が運用され、万が一の場合に位置情報が確認できる取組を行っている。

これは、亀岡市、関西電力送配電株式会社、亀岡警察署が協定を締結し、関西電力の見守りサービスを活用して行っているもので、これが府下全体に普及すれば、子供だけでなく、認知症の未帰宅高齢者の早期発見にも役立つものと思われる。

【委員】高齢者へ宅配便等の置き配を勧めるのはなぜか。

【警察】宅配業者を装った強盗事件が発生しているためであり、高齢者に限らず、一人暮らしの女性などは不都合がなければ置き配の方が良いと思われる。

## (2) 諮問事項説明

令和5年の交通事故発生状況等について～交通指導係長

【委員】重傷者が増加している理由は何か。

【警察】特に理由と言えるようなものはない。結果として、たまたま軽傷、たまたま重傷であったというしかない。同じ事故でも若い人は軽傷で済んでも、高齢者になれば骨折等の重傷を負う場合があり、明確な理由はない。

【委員】シニアカーは歩行者扱いか。

【警察】シニアカーは歩行者とみなすので、歩道のある場所では歩道を通行しなければならない。当然、歩行者専用道路も通行可能である。

【委員】シニアカーに乗ってる人が、シニアカーを止めて、普通に歩いて買い物する姿を見ることがあるが、乗車条件とかはないのか。

【警察】高齢者の歩行負担を軽減するために使用されることが大多数であるが、乗車条件や年齢制限、免許などはなく、誰が乗車しても問題ない。

【委員】シニアカーは自転車ほどではないが、歩く速度より速く走ることができるので、その速度で歩道を走行するのであれば、歩道上での事故につながる恐れもあり、シニアカー乗車のマナーやルールなどの啓発

活動が必要ではないか。

【警察】 メーカーなどと共同で安全走行の啓発を行っている。

【委員】 通学に自転車を使う生徒がいる学校は、ヘルメット着用がなければ自転車通学を認めないよう申し入れをすれば効果が上がるのではないか。

【警察】 自転車通学の条件にヘルメット着用の義務化を提案したことはあるが、各家庭の事情で格差が出る可能性もあるので学校として強制はできないとの回答を得ている。

【委員】 学校としては、ヘルメット着用を指導しているがなかなか周知されないのが現状である。自転車の乗車用ヘルメットの着用について、現在の努力義務から、完全義務化になる予定はあるのか。

【警察】 現時点そのような話は聞いていない。

【委員】 高齢者の免許の返納について、やはり勧めた方がいいのか。

【警察】 警察としては、安全面を考慮して危ないと少しでも感じれば、御家族から免許の返納を勧めていただきたい。ただ、交通インフラの整備が不十分な地域の方には、あまり強く言えないのが現状である。

【委員】 今回の説明で、交通取締りの重要性がよく理解できた。また、車を運転する高齢者も、運転能力が落ちているのを自覚する必要があると感じた。

以上

会 議  
内 容

## 第4回京都府城陽警察署協議会の開催状況

